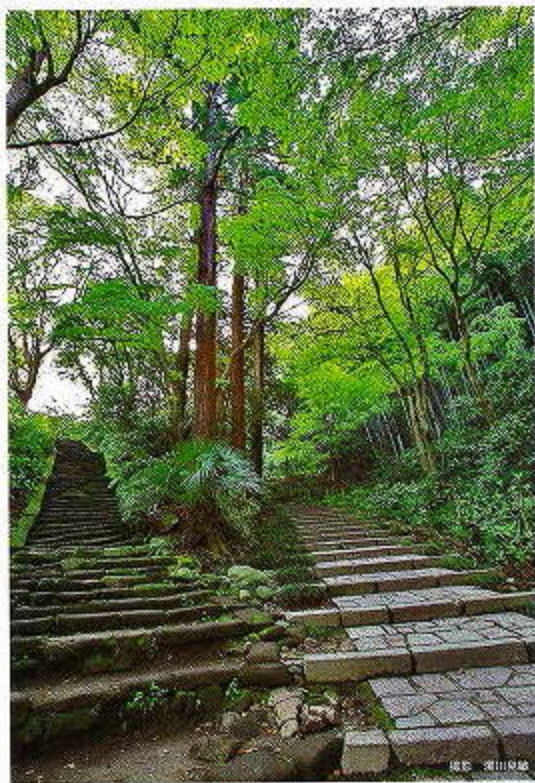




史名
跡勝

かまくら

瑞
泉
寺





夢窓国師と瑞泉寺

瑞泉寺は、鎌倉二階堂紅葉ヶ谷の奥に、夢窓国師によって建てられました。夢窓国師が建立された寺、庵は、いずれも景勝の地が選ばれていることで知られています。ここ瑞泉寺も風光明媚な環境の中に、鎌倉時代末期の嘉暦二年（一三二七）に創建され、山号を錦屏山と申します。

夢窓国師（一二七五～一三五二）は円覚寺開山仏光国師の孫弟子で、鎌倉時代から南北朝時代に円覚寺、南禅寺、淨智寺など五山の住職に就かれること八度、天龍寺、恵林寺など開かれた主なる寺六ヶ寺、後醍醐天皇はじめ南北朝の帝から賜った国師の号は七つ、これにより世に「七朝の帝師」と称えられました。国師は元來世俗の名利に遠い性格でしたが、その徳はおのずから広まり、多くの弟子はもとより、鎌倉時代には北条高時公とその母堂から深く尊崇され、南北朝の時代には後醍醐帝からも足利家からも帰依されました。南北朝の争乱の時代に、南朝の後醍醐帝の冥福を祈って北朝の足利氏が天龍寺を建てたことはよく知られています。国師の道力のなせるわざと申せましょう。足利尊氏公は敬って「仁山」の号を賜り、弟直義公は深く宗旨を問うて「夢中間答」を問版されました。そうした縁により、後に瑞泉寺は鎌倉公方足利家の菩提所となりました。

夢窓国師にはまた、すぐれた作庭家という一面もあります。国師の作庭された美濃の虎溪山永保寺や甲斐の恵林寺、京の天龍寺、苔寺の名で知られる西芳寺の庭園は今日、瑞泉寺庭園ともども、国の特別名勝・史跡に指定されており、

名勝瑞泉寺庭園

紅葉ヶ谷を東西三方の山が天然の垣根をなし、わずかに開けた西の空に富士山を仰ぐこの池を選び、天台宗、鑱屏山を背景として、夢窓国師は庭園を作られました。それは鎌倉石の岩盤に地形に応じ地質に即して巧みに大いたる彫刻ほどこした、鎌倉ならざる性格のものでした。境内の北の一隅の岩壁の正面に大きな石（天女窟）を彫って水月観の遺像となし、東側には坐禅のための窟（坐禅窟・佛光窟）をうがいました。天女窟の前には池を掘って貯水池と名づけ、池の中央は湧り残して島となりました。池の水を東側に流れれば滝壺に水分け石があり、垂直の岩壁は滝、その上方をさらに流れれば貯水槽があって天水を蓄え、要に応じて水を流せば坐禅泉と成り、つらえとなつています。池の西側には二つの橋がかかり、これを渡るとおのずから池の背後の山を通る園路に導かれます。二つの橋も敷え十八曲りに園路を登ると鑱屏山の山頂に出て、私たちがそこにまた大きな池と出会います。細ヶ岡から鎌倉園師の山並みが幾重にも波状をなして重なり、遠くには箱根の山々ががすみ、右手に寒峰富士が大きく裾を広げる足下には、相模湾が自然の池をなしているのです。借景の大庭園の広がるこの山園

に夢窓国師は小亭を建て、福耳一覽亭と名づけました。

岩盤を彫刻的手法によって庭園となした、「岩窟」とも呼ぶべきこの庭園は、書院時代の唯一の庭園なのです。又、心を休まる時を下さった」と国師はこの風致を讃えておられます。また瑞泉寺については「瑞泉蘭若」と称されました。「蘭若(らんじやく)とは元來は梵語で、村を去ること近からず遠からず、修行に適した所」の意ですが、転じて中国では官守・公の寺に対して「私寺を表わすようになりました。「瑞泉蘭若」とは、ご自身が気に入って住まう處、という意味になるでしょうか。

国師はその著「夢中間書」で、山水(山水)を愛するのには「泉石草木の四気にかわる気色を工夫とする」、つまり自身の心を磨く修行のためと述べておられます。難しいことはさておき、夢窓国師のこの庭園に對した時、あるいはこの境内全域に包まれる時、私たちは七朝の帝師の時空を超えた説話を、知らず聞いているのです。なお、瑞泉寺境内を含む真田地域は、鎌倉時代からの歴史的地域がよく保存されているところから、園の史跡瑞泉寺境内、また古都保存法による歴史的地域として特別保存地区に指定されており、

瑞泉寺略史

鎌倉公方足利家四代の菩提所となつた瑞泉寺は、鎌倉五山に次ぐ開元十刹の首位に列せられ、塔頭の數十余が知られております。江戸時代には徳川家から庇護を受け、多くの高僧が住職をされまし。専門的な話ではありませんが、幻住派や古月下の福原が歴代の住職により、広く開東一円に広められました。

元禄二年(一六八九)に水戸黄門光圀公が上山、一覽亭を復興、千手観世音菩薩を安置されたこと、嘉永四年(一八五二)に吉田松陰先生が叔父である瑞泉寺、千五百竹院和尚を慕つて初めて上山、後に二度訪問されたことなども、公に記録されているところでもあります。



Garden of Zuisenji Temple

The garden of Zuisenji Temple was laid out by Muso-Kokushi, founder of the temple, in a valley called Momijigayatsu in 1327. The valley, which gives us a view of Mt. Fuji far in the west, is surrounded by the mountains in the other directions. Those mountains serve as natural hedges of the garden, and are also used for its background. The garden also has some great sculptures engraved in the huge rocks behind the temple according to its geological and geographical features. These devices make the garden native to Kamakura.

A huge cave, called Tennyodo, is excavated at the rock in the northern corner of the garden. It is the hall used for meditation in appreciating the moon reflected on the surface of the pond named Choseichi. The pond is dug in the rock before Tennyodo with its center remaining as an islet. Its stream pours out from a natural reservoir on the eastern peak, running down along the rock into the basin of the waterfall, and flowing out to the pond.

Two bridges are built across the western side of the pond. The path over the bridges naturally turns to the route connecting the mountains behind the pond. The peak of Kinpeizan presents us a panoramic view as another garden. The mountain range in Kamakura stretches in a wavelike line from Tsurugaoka, the mountains in Hakone rise far off, and Sagami Bay spreads like a big pond at the wide skirts of Mt. Fuji in a sacred silhouette. Muso-Kokushi built a pretty teahouse overlooking this grand garden at this peak and named it Ichirantei.

The garden of Zuisenji Temple thus figures out the design of using natural rocks as essentials of a garden. This garden, which might better be called "Rock Garden," is the only remaining one of the gardens in Kamakura that were constructed in the Kamakura Era.

Muso-Kokushi explains that his love for landscape leads to cultivation of his mind. Standing still in the whole precincts of Zuisenji Temple and taking a view of its garden thus elaborately wrought, we are listening involuntarily and unconsciously to the discourses by Muso-Kokushi over time and space.

瑞泉寺の文化財

国指定重文—夢窓国師座像

鎌倉市文化財—千手観世音菩薩(鎌倉観音六番札所)/どこもく地

蔵尊(鎌倉地蔵七番札所)/庚申塔/夢窓国師頂相/夢窓国師

墨跡/因山和尚墨跡/竹斎菴書院/西園屏風図/書箱「大光

明戒」/書箱「扶桑云山記」/涅槃図/達磨図 など

鎌倉市天然記念物—フユザクラ/黄梅

瑞泉寺の花だより

水仙 12月初旬～2月初旬 椿 12月初旬～2月初旬

梅 1月下旬～3月中旬 (黄梅は2月中旬～3月中旬)

諸葛菜 3月初旬～4月中旬 桜・山桜 4月上旬

げんげ 4月上旬～5月中旬 新緑 4月上旬～下旬

藤 5月上旬 薔薇 5月上旬～中旬 白雲木 5月中旬

紫陽花 6月上旬～7月上旬 桔梗 6月上旬～7月上旬

半夏生 6月中旬～7月中旬 萩 8月下旬～9月中旬

芙蓉 8月下旬～9月下旬 薔薇 8月中旬～9月下旬

玉葉陽花 8月中旬～9月下旬 冬桜 9月中旬～4月

秋明菊 9月上旬～11月上旬 紅葉 12月上旬～12月下旬



アクセス 電車 鎌倉駅 (JR/江ノ電) 東口より バス大塔宮行
—15分—終点大塔宮下車/徒歩10～15分

道路 横浜横須賀道路朝比奈インターより20分

(坂根路石折/大塔宮/鎌倉宮) 右手奥)

〒248-0002 鎌倉市二階堂710

電話 0467-22-1191

Fax 0467-23-5399